



鹿児島県国際交流協会 からのお知らせ

インドネシア語版
ネパール語版 完成!!

がいこくじんじゅうみん ぼうさい
外国人住民のための防災ハンドブック

災害や防災用語について一冊にコンパクトにまとめました!

QRコードから無料で
ダウンロードできます▼



インドネシア語・ネパール語以外
にもやさしい日本語、英語、ベトナム語、中国語、韓国語があります。ご活用ください。



～Living Guide for International Student in Kagoshima～

りゅうがくせい せいかつ
留学生のための生活ガイドブック

鹿児島に住む
全ての
外国人の方へ

このガイドブックは、鹿児島で新たに生活を始める外国人の方々が、安心して暮らせるよう作成しました。お問い合わせに外国人の方に、ぜひご案内ください。

〈掲載項目〉

留学生に関係の深い法律・
日常生活・奨学金・緊急・
災害・医療・年金・交通・
外国人総合相談窓口 など

QRコードから無料で
ダウンロードできます▼



日本語・英語・中国語・韓国語
ベトナム語 があります。
ご活用ください。



「Kagoshima で暮らして」

鹿児島県の在住外国人の数は、年々増加傾向にあります。
『国際交流ひろば』では、鹿児島で頑張る在住外国人の鹿児島での暮らし等についてご紹介しています。
今回は、南九州市在住で中国・内モンゴル自治区ご出身の孟 卓然さんをご紹介します。



ご出身はどちらですか?どんな場所で育ったのか教えてください。

—私は中国内モンゴル自治区の出身です。自治区とは、少数民族の自治が認められた行政区で、内モンゴルではモンゴル族などの少数民族と漢民族が共に暮らしており、街中では中国語とモンゴル語が併記されています。独特の雰囲気がある地域です。私が育ったフフホト市は省都府都会的な面もありますが、少し車を走らせるとモンゴル高原が広がり、草原と青空のコントラストがとても魅力的なんです。



孟卓然(もうたくぜん)さん

孟さんご自身のルーツは?



内モンゴルの風景

—私はダウール族という少数民族です。ダウール語という独自の言語がありますが、文字を持たず、口伝えて受け継がれてきたため、今では話せる人がとても少なくなっています。祖父は流暢に話せますが、母の世代では聞き取りが中心で、私の世代になると知っている単語がわずか、という程度になっています。

日本に興味を持つようになったきっかけは何だったんですか?

—きっかけは母でした。母が日本語を勉強していた時期に、一緒にドラマを観たり音楽を聴いたりして、自然と日本に親しみを持つようになりました。

本格的に日本語を学び始めたのは大学に入ってからです。当時は語学の講師を目指していて、「漢字があるから日本語なら学びやすいかも」と思ったのですが、実際は敬語や自他動詞の使い分けに何度もつまづきました。先生からもよく注意されていましたね。

初めて日本に来たのはいつですか?

—大学3年生のとき、東京での1ヶ月間の日本語研修が初めてでした。その後、鳥取大学に半年間交換留学し、中国地方を旅行したり、美味しいものをたくさん食べたりして、日本が大好きになりました。なかでも大学の学食の肉うどんは感動ものでした。日本食は中国でも食べていましたが、素朴であたたかい味の家庭料理が特に好きです。

鳥取での経験を通して、もっと深く日本語を学びたいと考えるようになり、鹿児島大学の大学院への留学を決意しました。ちょうど希望していた研究分野の先生が在籍されていて、留学を考えた時期に大学同士が提携したこと、さらに恩師が鹿児島大学の卒業生だったことが重なり、「こじかかない」と感じました。

鹿児島大学大学院では社会言語学を研究していて、日本での学生生活は、修士・博士課程を合わせると今年で7年目になります。そして2024年度、ついに博士課程を修了しました!!

鹿児島での暮らしには、どんな印象を持たれましたか?

—最初は、噴火している火山の近くでどうやって暮らすの!と衝撃でした。海や山もあまり見てこなかった私にとっては、本当に驚きの

連続でした。

そして、鹿児島は食べ物がとにかく美味しい!鳥刺し、とんかつ、川辺牛……感動ばかりで、もはや鹿児島を離れる理由が見つかりません(笑)

現在は南九州市にお住まいとのことですが、移住の経緯や生活はいかがですか?

—結婚を機に移住し、今は古民家で暮らしています。最初は「ディープな日本で素敵!」とワクワクしていたのですが、自然に囲まれているぶん、虫や湿気はかなり苦勞しています。大きなクモやムカデ、そして、あの「G」もびっくりするほど巨大なんです(笑)。さらに湿気がすごくて、梅雨の時期には家中にカビが生えてしまうんです。内モンゴルは乾燥した地域なので、湿気対策がよくわからなくて…。今は換気や除湿を工夫しながら、少しずつ慣れてきました。

大変なこともあります。地域の方々が私たちの移住をととても喜んでくださって、野菜やお肉を分けてくださることもあります。人との繋がりのあたたかさを日々感じながら暮らしています。

国際結婚を経験して、文化の違いなどで驚いたことはありますか?

—夫は大阪出身、私は内モンゴル出身で、文化や考え方の違いが多く、最初は衝突することもよくありました。たとえば日本では、日常の中で「ありがとう」を頻繁に言いますよね。でも中国では、親しい関係の中ではあまり言わないことが多いんです。「親しいからこそ、迷惑をかけあうのは当たり前」という感覚があるからなんです。最初はその違いに戸惑いましたが、夫が丁寧に説明してくれたおかげで、今では私も自然に感謝の言葉を口にするようになりました。

ただ、中国に帰省したときに「謝謝」を何度も言っていたら、「なんだかよそよそしいね」と言われてしまいました。異文化の中で暮らすには、その国の習慣や価値観を尊重する姿勢が大切だと思います。自分らしさを保つバランスも必要だと感じています。「もう無理!」と思うこともありますが、なんでも楽しむ気持ちを大切にしています。

日々の暮らしの中で、大変なこともあるかと思いますが、それでも前向きにいられる秘訣はありますか?

—はい。家族が近くにいない不安はありますが、困難も含めてすべて楽しむようにしています。どうせ同じ時間を過ごすなら、楽しく前向きに生きたいですね。コロナ禍で気持ちが落ち込んで体調も崩した時期があり、「心と体はつながっている」と実感しました。鹿児島に暮らす外国人のみなさんには、どんな時も「楽しむ気持ち」を忘れないでほしいです。



南大隅町を訪れた時の様子

最後に、将来の目標を教えてください。

—3月に博士課程を修了し、現在は中国語の非常勤講師をしています。将来的にはこれまで学んできた言語の知識を活かし、人とのつながりを大切にできる仕事に就きたいと考えているので、まずはしっかり経験を積んでいきたいと思っています。南九州市でも地域の方々に中国語を教える機会があればうれしいですね。お茶を飲みながら和やかな雰囲気、人と人がつながる場を作っていけたら素敵だなと思っています。



シアトル日本語補習学校 校長 鹿屋 純一

【鹿児島からシアトルへ】

私は、文部科学省のシニア派遣で、シアトル日本語補習学校に赴任しました。昨年の4月4日に文部科学省で委嘱状とパスポートが渡され、翌日の夕刻に日本を出発。約8時間半のフライトの後、シアトルには時差の関係で、出発した日付の午前中に到着。翌朝7時から勤務開始。そこから着任式と始業式、入学式リハーサルと、目の回るような補習校での生活が始まりました。

【シアトルってどんな街？】

シアトルと聞いて、シアトルマリナーズのイチローさんや同郷の川崎宗則さんを連想しました。シアトルは、シアトル市(約75万人)や本校のあるベルビュー市を含む3つの郡



【シアトルダウンタウンとマウントレニア】

からなる人口約400万人の都市圏で、地理的には高緯度で、樺太中部に相当する位置にあります。地震や台風等の自然災害もほとんどなく、四季を通じて快適に暮らせます。航空機のボーイング、IT関係のマイクロソフトやグーグル、メタ、アメリカ任天堂、アマゾン等の有名企業があります。

【シアトル日本語補習学校は、どんな学校？】

本校は、幼稚園部から高等学部まであり、約510人の児童生徒と60人弱の教職員がいる、「日本と世界の懸け橋」を目指す学校です。

子供たちは、平日には現地校で英語による授業を、土曜日には本校

で、日本の教科を日本語で学びます。授業は週に1日、1年間で40日。日本の1週間分の学習範囲を1日で学ぶため、授業はスピーディーで宿題も多いです。現地校の宿題も多い中、子供たちは「両立」を目指して頑張っています。日本からの派遣教員は、私と教頭先生の2人。他の先生は、全員が現地採用教員です。

【アメリカの現状とこれからの子供たちへ】

「自由の国」アメリカですが、実は、法律などは厳しく、基本的には自己責任。自由と義務の両方が守られている国です。日本の方が様々な面で緩く、自由度は高い感じです。

IT化が進み、スマホやコンピューター、クレジットカードの使用が浸透し、現金を使う機会は皆無です。野球等のチケットはスマホに届き、入場時にスキャン。球場での買い物も電子決済のみです。IDは免許証1枚。顔写真や住所以外に身長や体重、目の色などの個人情報が記録されています。10年前までの勤務地シンガポールもIT化は進んでいましたが、この10年間だけを見ても、日本と世界との差は更に大きく開いてきたように感じます。コロナ禍を経て授業も職員間の打合せも、リモート



【着物姿も多かった日本的な本校の卒業式】

で可能です。北米の校長間の打合せもリモートで行います。グローバル社会を生き抜く子供たちは、学力や体力、気力に加え、必要なツールとしての英語力やICT機器の活用を含めたコミュニケーション能力を身に付ける必要があると強く感じています。

おしゃべりCAFE

鹿児島県国際交流協会働く外国人スタッフの日本語での楽しいおしゃべりをのぞいてみましょう!

本日の参加者: 韓国 Sさん ベトナム Rさん 中国 Lさん シンガポール Yさん 日本 M

テーマ：お花見

M: 今回は外国人からみた日本の花見についてお話を聞きたいと思います!!
みなさんが日本のお花見について感じていることを教えてください!!

R: 私はアニメで見て、ずっと憧れていました。桜の下でお弁当を広げて、静かにおしゃべりする…そんな上品で優雅なイメージ。でも実際に行ってみたら、にぎやかすぎてビックリ!バーベキューにカラオケ、お酒もたっぷり、「あれ?これが花見?」って(笑)。

Y: そうそう!私ももっと静かでロマンチックなものを想像していました。でも実際は「花より団子」状態。みんな食べて飲んで、桜はおまけみたいでした(笑)。

S: 昼間から外でお酒を飲んでも良い雰囲気なのって面白いよね。「花をじっくり眺める」よりも「みんなで集まること」が目的みたいな。

L: 中国の私の住んでいる地域にはそういう文化があまりなくて、せいぜい遠足で花を見るくらい。だから、シートを敷いてご飯を食べたりするのはやっぱり日本独特ですよ。

それから、「桜前線」がニュースになってるのを見て、「なんでニュースに?!」って驚きました。桜って、日本人にとってほんとに特別なんですね。

R: それにしても、桜って白っぽいんですね。絵文字やスタンプでは全部ピンクだから、実際に見ると「ちょっと違う…」って(笑)。

S: 私もそう思いました!しかも儂い。咲いたと思ったら、あっという

間に散ってしまう。写真では満開ばかり見ていたから、実物は「え、こんなに早いのか?」って驚きました。

Y: それに春なのに寒すぎる(笑)。花見=ぽかぽか陽気のピクニックだと思っていたら、ダウン着て震えてました…。

L: あと桜って、ただ「きれい」なだけじゃなくて、どこか寂しい印象もありませんか?日本では新生活の象徴かもしれないけれど、中国ではそういう季節じゃないから、散る桜を見て「また一年が過ぎたなあ」としみります。

S: わかる!「日本に来て何度目の春かな」って、つい数えちゃいます。

R: ベトナムでは「桜=日本」というイメージがとて強いんです。だから、「さくら」って言えばたいてい通じますよ。

Y: シンガポールでも同じです。桜は日本らしさを象徴する言葉として浸透していますね。

S: 「さくら」はまさに日本そのものって感じて、すごく強い日本文化のアイコンですね。最近は韓国の若い人たちの間でも、日本式の花見を真似する人が増えてきているんですよ。

M: 花をきっかけに国を越えてつながれるって、素敵ですね。来年もみんなでお花見できますように〜♪

2024 年度 3 次隊の隊員 6 名が出発しました！

鹿児島県から新たに 6 名の JICA 海外協力隊員が、アジアやアフリカ、中南米の 6 か国へと旅立ちました。派遣国はベトナム、カメルーン、ルワンダ、ペルー、セネガル、パラグアイ。職種は幼児教育、野菜栽培、公衆衛生、環境教育、高齢者介護など多岐にわたり、それぞれが自分の経験や専門性を活かして、現地の人々と共に活動を行います。

出発に先立ち、3 月 27 日には鹿児島県庁を訪れ、副知事に出発の報告を行いました。参加者は「自分の力を少しでも誰かのために役立てたい」「現地の人々と交流し、学び合いながら成長したい」と、力強く抱負を語ってくれました。協力隊の任期は 2 年間で、これからの活動を通じて、現地での課題解決に貢献するとともに、日本と世界をつなぐ「架け橋」としての役割も担います。

現在、鹿児島県出身の JICA 海外協力隊員は 22 名が各地で活動しています。国際協力に興味のある方、新しい挑戦を求めている方にとって、海外協力隊は大きな一歩となるはずです。活動職種は 200 種近く、20 歳～69 歳までの多くの方に門戸が開かれています。あなたの一歩が、世界を少しずつ変えていくかもしれません。



JICA 海外協力隊は、開発途上国で現地の人々と共に生活し、同じ目線でその国や地域の課題解決に貢献する活動を行っています。

「人生なんてきっかけひとつ」

今の自分をなんか変えてみたい。せっかくならドキドキすることをしてみたい。もしそう感じるがあったら、それはあなたの心がくれたサインかもしれません。見たことのない景色、新しい自分に会いに、一歩踏み出してみませんか？

問合せ先
個別相談

JICA デスク鹿児島 TEL:090-7167-4238

鹿児島市山下町 14-50 カクイックス交流センター



がいこくじんそうごうそうだんまどぐち 外国人総合相談窓口

鹿児島にお住まいの外国人の方のための相談窓口です。生活、在留資格、労働、医療、福祉などで困ったことがありましたら、お気軽にご相談ください。

対応言語：日本語/英語/中国語/韓国語/ベトナム語/タガログ語/インドネシア語/ネパール語/クメール語/タイ語/ミャンマー語/ポルトガル語/スペイン語/マレー語/フランス語/ロシア語/ドイツ語/イタリア語/モンゴル語/シンハラ語/ヒンディー語/ベンガル語/ウクライナ語/ ウルドゥー語

鹿児島県国際交流協会内

TEL : 070-7662-4541

E-mail : kiasoudan@gmail.com



Facebook



← 天文館方面

霧島方面 →

本誌・掲載内容に関する問合せ・申込み先

公益財団法人鹿児島県国際交流協会

(火曜～日曜 9:00～17:00)

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50 カクイックス交流センター1階
(かごしま県民交流センター1階)

Tel: 099-221-6620 Fax: 099-221-6643

URL: <https://www.kiaweb.or.jp/>

Email: kia@kiaweb.or.jp

Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc>

「国際交流ひろば」は、ホームページにも掲載しています。ご自由にダウンロードしてください♪